



聖鋤会報

発行所
北海道立農業大学校
同窓会

中川郡本別町西仙美里
電話 0156-24-2121
編集 事務局

同窓会会長就任にあたって



北海道立農業大学校同窓会

会 長 若 井 和 博

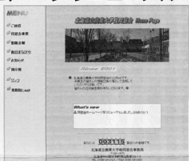
同窓会の皆様におかれましては、各々の地域社会で御活躍のことと推察いたしますとともに、同窓会活動に御理解・御協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

私事ではありますが、今期、同窓会会長を務めさせていただくことになりました。各役員の方々、並びに学校関係者の御力を借りながら大任を果たしたいと考えておりますので、今後とも、宜しくお願い致します。

さて、今年には天候には恵まれはしたものの農産物の価格低迷・品質の低下など、農業を取り巻く社会情勢は厳しい状態が続いています。対外的にも、自由貿易協定・農産物の品目横断と、北海道農業の将来をどう確立していくかという今、まさにその答えを求められている時期になっていると思えます。一人一人のパワーを結集してこの大きな転換期を乗り越えらるよう頑張りましょう。

同窓会ホームページリニューアル

同窓会の公式ホームページです。卒業生の皆さんの情報交換の場として是非活用してください。



<http://www.noudai.on.arena.ne.jp>

なお、平成十八年には、農業大学校六十周年の記念行事を執り行う予定になっております。これに伴いまして、まことに恐縮ですが、同窓会維持のため、会費を集めたいと思っております。御了承願います。

最後になりましたが、自然災害に遭われました方々に心よりお見舞い申し上げます。会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

期別世話役紹介

- 〈農講〉2 鈴木一義 / 3 川端治 / 5 菅谷誠・渡辺善信 / 7 大沢義一 / 8 植田博吉 / 9 森田洋三 / 10 森山陸美 / 11 大平清吉 / 13 辺見政孝 / 16 小南和夫 / 17 佐川満 / 18 吉田甫 / 19 西山利昭 / 20 河田裕 / 22 石川眞清 / 23 松崎文一 / 25 中鉢昭夫
- 〈農大〉1 川本秀二 / 2 和田嘉晴 / 3 塩村昭博 / 4 石丸博雄 / 5 高井正行 / 6 道下貞夫 / 7 笹島喜郎 / 8 岩井敦史 / 9 井出和実 / 10 富山和也 / 11 石原英之 / 12 森本耕二 / 13 宮本成行 / 14 牧村康弘 / 15 小松洋一 / 16 遠山昇治 / 17 田村直樹 / 18 大碓晋二 / 19 近藤大樹 / 20 三田浩司 / 21 佐藤昭徳 / 22 熊谷直哉 / 23 田中真理子 / 24 塚田秀則 / 25 齋藤かおり / 26 日光純一・渡邊基樹 / 27 嶋貫一也・柏葉宏樹 / 28 中澤光太郎・鈴木隆也 / 29 今野大吾・今西大和 / 30 佐藤貴文・山本秀幸
- 〈農大稲作〉1 吉田和浩 / 2 大江博之 / 3 穴戸聖 / 4 平塚美明 / 5 水嶋淳 / 伊藤優治 / 6 石川秀樹 / 7 嶋田雅夫 / 8 泊り幸 / 9 石崎憲一 / 10 富樫孝 / 11 岡村博信 / 12 平隆之介 / 13 吉見拓也 / 14 吉村正之 / 15 森勇貴 / 16 石川大輔 / 17 竹内誠 / 18 國岡晃平
- 〈農大研究〉1 内野康晴 / 2 加藤幸嗣 / 3 木村晴美 / 4 山岸淳 / 5 中西崇維

新生農業大学校に向けて



北海道立農業大学校

校長 高田 徳 敷

同窓会の皆様には、常日頃から、本校の運営に対して、格別のご理解とご協力をいただき、この紙面をお借りして、感謝を申し上げます。

私は、昨年四月の着任以来、間もなく二度目の厳しい冬を迎えようとしておりますが、この間、関係各位のご理解とご協力により、大過なく過ごさせていただきました。ありがとうございます。

また、本校は、昭和二十一年五月に《北海道立農業講習所》として発足以来、本年は、六十年目に当たり、来年には創立六〇周年の記念すべき年を迎える運びとなりました。

この間、四、一〇〇余名の卒業生が全国各地において、中核的な農業経営者として、更に地域農業における指導者として、幅広く活躍されております。

同窓会の皆様のご活躍に対して、職員・学生を代表して、心から敬意を表する次第であります。

さて、道では、本道農業・農村の持続的な発展に向けた道内関係者の共通指針として、昨年三月、「北海道農業・農村ビジョン21」を公表しましたが、

その策定趣旨は、これまでの農業・農村の在り方を見直し、消費者と生産者との信頼関係を基本に、「食」と「環境」、これを支える「人」や「地域」に着目した取組を重点化して、農業者が将来に向けて希望と誇りを持って取り組める農業と、誰もが住み、訪れることで喜びを感じる魅力ある農村の姿をデザインして、地域の個性が輝く活気ある本道農業・農村づくりを目指したものであります。

この中で、本校に対しては、「食」と「環境」を支える「人」を育むため、次代を担う多様な元氣な「人材」づくりの中核的な施設として、更に全道唯一の公設農業者研修教育機関として、これからも本道農業・農村を守り育てる農業者に対して、実践的な教育を中心に、近代的な農業経営に必要な知識・技術を研修教育し、想像力豊かな意欲ある担い手の育成・確保に努めることが求められております。

このため、本校としては、将来、就農する学生には実践的な研修教育の場として、更に高度な技術等を習得する一般農業者には生涯学習の場として、

（夢と希望を与える魅力溢れる、地域に開かれた農業大学校）を目指し、これまで以上に研修教育体制の充実・強化に努めて参りたいと考えております。特に、国・地方を問わず厳しい財政状況に置かれ、様々な行政改革が実施されており、協同農業普及事業も抜本的に見直されることになり、本校に対しても、より効率的・効果的な運営が求められております。

こうした状況の下、本校では、具体的な取組として、研修教育体制のより一層の充実・強化を図るため、来年四月から、これまでの農業改良助長法に基づく《農業者研修教育機関》に加えて、新たに学校教育法に基づく《専修学校《専門学校》》として位置付け、卒業生に《専門士》の称号を授与するとともに、より高度で幅広い知識を取得しようとする卒業生には大学等への編入の道を開くことにしました。

本校は、昭和二十一年に農業講習所として発足し、昭和四十九年には現行農業大学校に改組し、今回、専修学校に位置付けることになりましたが、これからは新生農業大学校《専修学校・北海道立農業大学校》として、変革の時代にも対応できる創造性に溢れた担い手づくりに向けて、本校の基本的な枠組みは堅持しつつ、これまでの伝統と使命を守りながら、皆様からのご期待に十分応えられるよう、私ども職員一同、更なる努力を尽して参りたいと考えておりますので、同窓会の皆様には、変わらぬ暖かいご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

学校行事紹介

【農大市】

毎年盛況の農大市が、今年も十月二十二日(土)に開催されました。

早朝から農大には長蛇の列ができ、開店早々に豆各種、白菜、玉ねぎ、ごぼう、にんじん、長芋等の野菜があつたという間に完売しました。まとも買いうるお客様のために、品物をリヤカーで運ぶサービスもフル稼働で、学生も寒い中、汗を流して頑張りました。

また、今年初めて畜産経営学科の学生による牛肉販売が行われました。秋に行われた「第2回ジエネティックス北海道黒毛和種肉共進会」において、学生が育てた肉牛の枝肉が最優秀賞に輝き、「全国でもトップクラス」として認められました。その宣伝効果もあつてか、牛肉もあつたという間に完売。初めて販売体験を行った学生は、「準備段階で部位の名前を覚えるなど勉強になった。」「実際に育てた牛を牛肉として販売することにより、流通

について考えることが出来た。」「これから頑張つて牛を育てていきたい」等目を輝かせて語ってくれました。



第十回 同窓会総会

〈新会長に若井さん(農大1期)を選出〉

三年に一度の同窓会総会が、平成十七年二月二十六日に開催されました。第十回を迎えた今回の総会には、全国各地より十九名、懇親会二十四名の出席がありました。

総会では、平成十四〜十六年度事業経過報告、会計決算報告等承認されました。その中でも、同窓会の財政難について話し合わせ、入会金の値上げ(七千円から一万円へ)、会費の復活、寄付のお願い等が決定されました。(お知らせ2参照)

また、今年、役員改選の年となり、会長に若井和博さんが就任致しました。新役員は次のとおりです。

役員紹介

会長 若井 和博 農大1期(千勝支部)
副会長 青木 伸 農大5期(網走支部)

鈴木 一義 農講2期(根室支部)
小倉 清爾 農講1期(石狩支部)

芳沢 浩一 農講1期(釧路支部)
川本 秀二 農大1期(千勝支部)

福田 秀利 農大1期(千勝支部)
八木沼彰男 農大1期(千勝支部)

監事 杉本 剛 農講7期(根室支部)
松田 修人 農講18期(釧路支部)

第10回北海道立農業大学校同窓会総会



また、懇親会は本別グランド温泉で行われ、農講八期生から農大二十九期までの二十四名が出席されました。大先輩から若い会員まで膝を交え、それぞれの農大生時代の昔話に花が咲いてました。



同窓生の広場

追憶



講習所十一期生
小沢 祐治
(富良野)

終戦後の食糧増産と日本経済の発展の土台となって農業振興に活躍された聖嶽同窓会の皆様お元気ですか。早や四十数年の月日が流れました。私もお陰様で、元気で現役で営農に従事しています。テレビドラマ倉本 聰作「北の国から」のロケ地、富良野塾の隣部落でハスカップを五ヘクタール栽培している農家です。若き頃、夢と希望に溢れて仙美里ヶ丘に立つ、当時は根室本線で富良野発SL機関車、今の機寅で一台中設二台の機関車が狩勝トンネルを出ると、十勝の大平原と大穀倉地帯、見るものがめずらしくて仙美里に到着、入学式、所長より「実践を通じて知恵で学べ」と一言が農業の基礎となる言葉だったと、農業経営を通じて深く、感銘している次第です。

さて、新しい農大を創るため、十一月十四日に四十ふりに母校を見せてもらいました。風の便りに聞いていましたが、観てびっくり、よく手入れされた芝生に包まれた校舎、近代的な設備・研究室等を案内され、奥深く入ると牛舎・農機具庫よく手入れされていました。

基本は当時と同じ自給自足の経営だと思えます。農業も国際化時代となり、国の政策により大規模な経営となる時、北海道は国の食糧基地としての役割、農大は地域ひいては全道民の計り知れない財産だと思えます。牛舎を見て、毎日新鮮な牛乳と初めての搾乳した時に上手でないために牛が怒って、蹴つ飛ばされたら、農作業は馬でした。よく訓練された道産子で足が速く、敵立てなど馬のほうに判って教えられました。数々の思い出をくれた仙美里ヶ丘は私の一生の思い出として残ることでしよう。

最後に農業の取り巻く情勢はウルグアイランドにより厳しい事態にあります。私の栽培しているハスカップも近代科学により、アントシアニンとレジニン成分がブルーベリーアンの三倍から五倍があることが判り学会とテレビで取り上げられ、栽培して二十年でやっとな小さな光が見えました。いづれ安い中国産も姿を消し、国内産の自給市場となり、日のあたる産業として、必ず良くなることを念願して、頑張りましょう。

昭和五十三年度五期



農大五期生
富岡 一也
(浦河町)

去る、十月十三日に岩見沢市で開催された、第六十一回北海道家畜人工授精技術研修大会のときに、会員で二十

五年以上、人工授精事業に従事した永年勤続功労者ということで農大同期生の加藤君、下村君と三人が日高支部で受賞しました。農大で授精士試験を受けて、そんなにも過ぎたのだと感じながら賞状を受け取りました。実は、平成元年にも、農業士養成研修で昭和六十三年から一年間、農大生をしていました。その時は、家業でしたが、高校で、日程がかなり大変でしたが、高校時代の先生や、日高東部で農改をしてきた秀教務課長などの支援を受けて、一年間を終えました。

現在は、日高の浦河町で小規模な酪農と、日高農政で代行授精士、消費者や子供達を対象にした、交流牧場・酪農教育ファームをしています。世の中の流れは、大規模にシコントラを使用し分業化の時代ですが、当ファームは、地域的にそのような環境になく、農大で取得した資格技術で、自分で授精や割蹄をし、他の農家からも仕事を頼まれています。小規模ならではの多角化経営を目標にしています。酪農といっても良い牛を作る人、大規模に乳を出荷する人、消費者にピアルする人、牛乳が消費されなければ、今、一番の問題です。交流牧場・教育ファームを通して、酪農の素晴らしさや大切さを伝えることが出来るようにと、体験者の受け入れをしています。体験者の中には、子を生んだ雌でなければ牛乳を搾れないことを知らない人もいます。また酪農は、豆乳を搾ると出るオカラや砂糖を作ると出来るビートバルブを食べ、糞尿は、畑・草地で肥料になり、

また草を育て、牛が食べて乳を出す。昔から、リサイクル産業であることを知ってもらい、消費者が生産者を理解できる仕事を目指しています。

農大から今



畜産経営学科
十八期生
山 洋弥
(黒松内町)

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？北海道では珍しく二年連続の台風上陸でしたが、昨年ほどの被害もなく無事、デントコーンの収穫を終えることができました。

早いもので農大を卒業して十二年の歳月が過ぎようとしています。当時は寮長として、寮の管理等々いろいろ経験もさせてもらいました。週一回の寮長からの一言を考えるとが大変だったのを今でも覚えて、いろいろな局面で、皆に協力してもらった事は今でも感謝しています。

卒業後は、乳牛検定員・酪農サブヘルパーを経験し、二十五歳の時に、経営を引き継ぎました。頭数も小規模ながら少しずつ増えてきました。現在は、繁殖重視で、乳量に関しては牛まかせといったところです。今一番力を入れている事は、粗飼料調整です。ここ黒松内は、夏は太平洋に影響を受け、冬は、雪が多く日本海側の影響になります。牧草の収穫期には、夕方にはガスが発生し、牧草の調整には悩んでいます。

した。昨年の台風をきつかけに、自走式ハーベスターを六戸共同で更新し、適期収穫に心がけています。

畜産経営学科では、自分が一番南に位置しているのに、なかなかみんなに会えないけれど、農大の二年間は何れにもかえがたい大切な思い出として、自分が頑張れるのも、みんなと過ごした時間があるからだと思います。

最後に健康で、地域の中心的な存在として活躍されることを心から願っています。

新しい仲間 私の目標



畜産経営学科
三十期生
齊藤 翔
(別海町)

皆さん元気ですか。私は今、農大大学校研究科に在籍しています。日々パソコンや授業との格闘で、ポロポロになりながらも、友達と元気にやっています。

養成課程在校中も嫌なこと、つらいこと、悲しいこと、色々ありました。しかし、そんな困難も乗り切ることが出来、今の自分があるのは、最高の仲間のおかげだと本当に心からそう思います。まずはお礼から。

話は変わって、研究科での私の課題は「新しい技術の有効利用」です。今年、試験場での研修を行い、様々な新

しい技術を見て、驚きの連続でした。これらの技術を我が家へ導入できれば、より良い経営ができるのではないかと、そんな思いが込み上げてきています。

現場の厳しさを、難しさはまだまだわかりませんが、これからもより一層努力し、課題を解決するのが「私の目標」です。

仲間へ



畑作園芸経営学科
三十期生
曾根 敦勝
(津別町)

同期のみんな、そして諸先輩方お元気ですか？生まれて初めてこのような場所に登場します。

将来のことを何も考えていなかった自分がノリで農業大学校に入校した二年前、先生や先輩・友達の話す農業を聞き、「これはマズイ」と思ったのを今でも覚えていてます。

自分がここに来て良かったんだろうか？この先どうすれば良いのか？と考えていたとき、頼りになったのが同期の友達でした。そんな仲間と一緒に二年間、実習・プロジェクト・学校行事をやっていくうち「農業もいいなあ」と思えてきました。

現在自分は、農業経営研究科に進み、郊外実習で自家の現状と自分のやりたい農業を学び、今度こそ農家になれる日を目指して、新しい仲間と勉強していきます。

楽しく営農していますか



稲作経営専攻コース
十八期生
國岡 晃平
(栗山町)

皆さん、元気にやっていますか？私は元気です。

さて、農大での二年間ですがとても短かったです。しかし大変充実した二年間でした。普段は深川の拓殖大学の講義だったのが農大での授業は年二回。農大生との交流がなかったのが残念でした。また拓大では多くの学生と交流でき農業以外の情報交換が出来てとても良かったです。

私は、今年から農業を始めたわけですが、まだ「手伝う」から抜け出しませんが、今後は「経営する」に早くなるようにがんばっていきたい。よい点をたくさん見つけて、悪い点は出来るだけ無くす。単純な事かもしれないけど、まだそれに気づくまでは時間がかかりそうですが、物事に迅速に対応できる農業者になりたいです。

毎年、米価が下がってきています。今後、米の値段が上がることもないと思います。北海道米のおいしさは、もっと自慢していいと思います。

コシヒカリなどの有名ブランドに負けまいくらいいい米だと私は思っています。早く北海道米が有名ブランドになる事を期待して私は頑張っていきたいと思えます！

農大で学んだこと



農業経営研究科
五期生
松村 啓他
(厚沢部町)

みなさん元気にお過ごしでしょうか、農大養成課程卒業後研究課程に進学し、今春卒業しました。「人生楽ありや苦もあるさ」ともよく言いますが、今、在学中のことを改めて振り返ってみると、2対1の割合で楽が多い四年間でした。

私は農大に入學しとても大事なことを三つ学びました。

『知識』『つながり』『飲み会』どれをとっても社会には欠かせないことです。自分の愛してやまない農業の知識を会得し、共に学び合った仲間や先生との絆、つながり、飲み会では「マナー」「自分自身のリミッター」「接待のしかた」と大きなものを学びました。

現在私は、十勝農業試験場栽培システム科に臨時職員として働かせてもらっています。職場では農大で学んだことを生かし、仕事や生活はとも充実しています。色々な方とふれあい、知識を吸収しここでも大きなつながりを作っています。

みなさんもたくさんの人たちと出会い、知識を吸収し、世界を股にかける農家を目指して頑張ってください。

期 別 活 動

農講十期生同窓会

幹事 加藤 勝義

私共農講十期生も卒業以来五十年を迎え、平成十七年二月十九、二十日、阿寒にて同期会を開催させて頂きました。その間諸事情により、やむを得ず転勤された方も居りますが、今度、全員が当時の学習、実習そして寮生活での印象が心に強く残っています。五十年振りの参加者も数人おられ、改めて当時の想い出と培われた精神が今だに、大きく心に残り今に生かされて居ることに皆様が感謝しております。



ニュー阿寒ホテルシャングリラにて

農講二十三期生同窓会

幹事 武田 猛

今回、農講二十三期生同期会を、去る平成十七年二月二十六日温根湯温泉(大江本家)で開催しました。

中には三十六年振りに再会した人もいました。

本当になつかしく、たった一年間ではありましたが、共に同じ釜の飯を食べた仲間です。

恩師である上村寛先生も出席され、酒を飲み、楽しい一夜を過ごすことが出来ました。



温根湯温泉 大江本家にて

お知らせ

1 農業大学校創立六十周年記念行事

農業大学校は平成十八年に創立六十周年を迎えることとなりました。ささやかながら、記念行事として講演会及び植樹を行うこととなりました。

出席を希望される方は、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

日時：平成十八年六月二日(金)
午後一時三十分

場所：農業大学校講堂・農大の杜

内容：(1) 講演 平 和男氏
(農大11期生)

(2) 植樹

2 会費及び寄付金のお願い

現在、同窓会収支状況は、毎年二十〜三十万円赤字となっております。

このままでは、あと数年で破綻してしまいます。同窓会の収入の主な内訳は、①入会金 ②会費 ③寄付金からなっています。会費については、平成五年〜十年まで徴収していましたが、平成十一年以降は徴収していませんでした。

そこで、来年六十周年記念行事のことも踏まえ、会費及び寄付金の徴収について皆様にお願ひする運びとなりました。つきましては、会報に

同封致しました郵便振替用紙にてお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

◎会費：二千元(三年間分)

3 支部活動及び同期会

支部及び期別活動を計画された際に、同窓会事務局まで一報下さい。諸経費の一部として活動費を支出します。また、ホームページや会報等で紹介させて頂きますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

▽年もせまり何かとご繁忙のことと思いますが、同窓会の皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年も、同窓会「聖欽会報」三十一号をお届けでき、嬉しく思っております。

▽来年、農業大学校は創立六十周年を迎えます。また、知事公約であった専修学校となり、道内の農業系の大学に編入可能となります。農大生の進路に新しい可能性が開かれ、さらなる飛躍の年となりそうです。

▽個人情報保護法に伴い、同窓会報紙面において一部変更させて頂いております。卒業生名簿及び職員人事を割愛させて頂きましたこと、ご了承下さい。(事務局)